

異国の地で異文化に接しながら、協力活動を展開する隊員たち。着任時の彼らの期待と不安、理想と現実、興奮と緊張。これらをどのように巧みに形容したとしても、その心情を表わすことは難しいだろう。中近東での協力隊の活動は、1967年モロッコで開始された。アラブ社会のイスラム教による生活規範の相違や文化の違い。これらを隊員たちは忍耐と知恵をもって克服し、精一杯仕事に取り組みながら長い時間をかけ、現在までの歴史を築きあげたのである。今日、スポーツや教育分野、そしてそのほか多くの隊員たちの協力、努力、貢献の成果は多くの足跡となり、新たな歴史に刻まれていくことだろう。



テュニシア
1975年派遣開始



シヨルダン
1986年派遣開始



シリア
1970年派遣開始



モロツコ
1967年派遣開始



スーダン
1990年派遣開始
現在、派遣中断中



イエメン
1991年派遣開始
現在、派遣中断中



スポーツの喜びと楽しさ そして厳しさと感動を 隊員たちの情熱が シリアの人々に伝わった

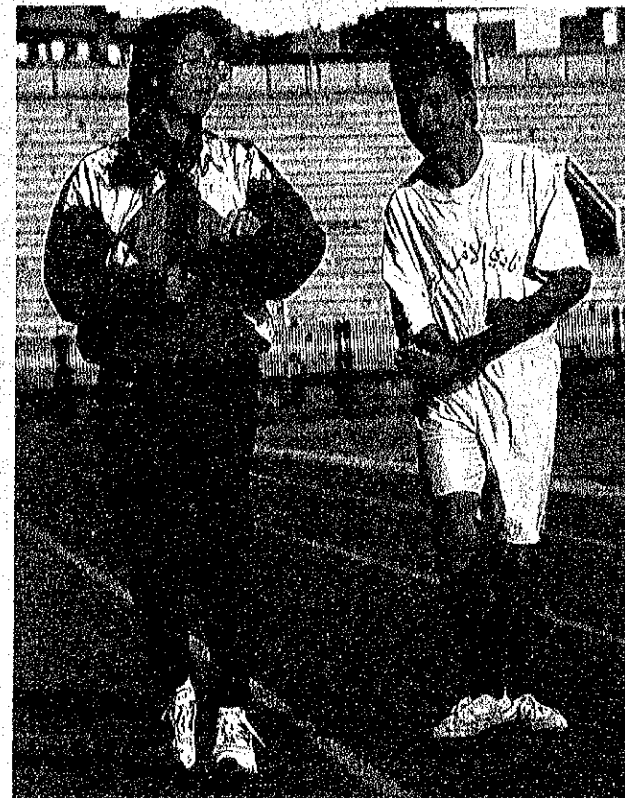
身体に障害を持った人たちにひとりでも多く、スポーツの喜びと楽しさを知ってもらいたい。健常者と同じようにスポーツの素晴らしさを体験してほしい。そして感動を味わってもらいたい。

シリア総合スポーツ連盟の中の障害者スポーツ協会で、車椅子の生徒たちに混じって、指導の汗を流す隊員の声が響いた。そこには身障者スポーツの普及と指導者の育成を進める隊員たちの情熱があった。

一日に5回、コーランが街中に響く国。この異なる文化の中、がっちりと組んだ腕と腕は、シリアと日本が組み合った協力の姿だ。レスリングを指導する隊員と生徒の腕と腕。それは堅い友情を集めているようであった。

大事なことは五感を働かせること。よく見て、聴いて、感じて、触れて……首都ダマスカスで新体操指導をしていたある日、子供たちの一挙手一投足に向き合う隊員の心は、いつしかその情景の一部になっていたという。

スポーツの中の心と身体。走り、跳び、投げて、舞う。隊員と生徒たちは、全身で協力を体現していた。



障害者に筋力トレーニングや陸上競技の指導をおこなっている浦崎理世子隊員。体を動かすことの楽しさを教えるだけでなく、目標とする大会に向けて戦術的な面の指導もしている。さらに、日本文化を紹介する意味で空手も加えたいと考えている

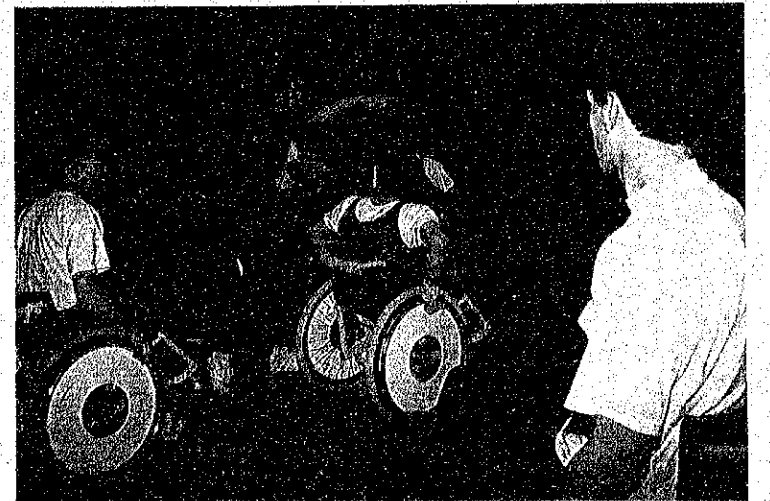


車椅子バスケットボールの魅力は、シュートが決まった時の感動ですね

チームプレーの楽しさと大切さ、練習の厳しさと充実感、これからスポーツの素晴らしさと感動をつかんでももらいたい。今日も田辺努隊員は、車椅子バスケットボールチームで情熱的な汗を流している。今あるものでやる、なければ工夫する、という精神の下、とにかくまずできることから彼らにスポーツの機会を与えようと、切磋琢磨が続いている



シリア砂漠の遊牧民とラクダの一群。遊牧民にとって、ラクダに水を飲ませることも大切な仕事のひとつ





シリアで人気が高いレスリングのコーチとして派遣された久木留毅隊員。基本的なことから自ら練習相手となって実戦的な戦術の指導もおこなう。生徒たちはレスリングシューズも履かず、普段着で練習。質の高いレスリング技術を身につけてもらおうと隊員の努力は続く



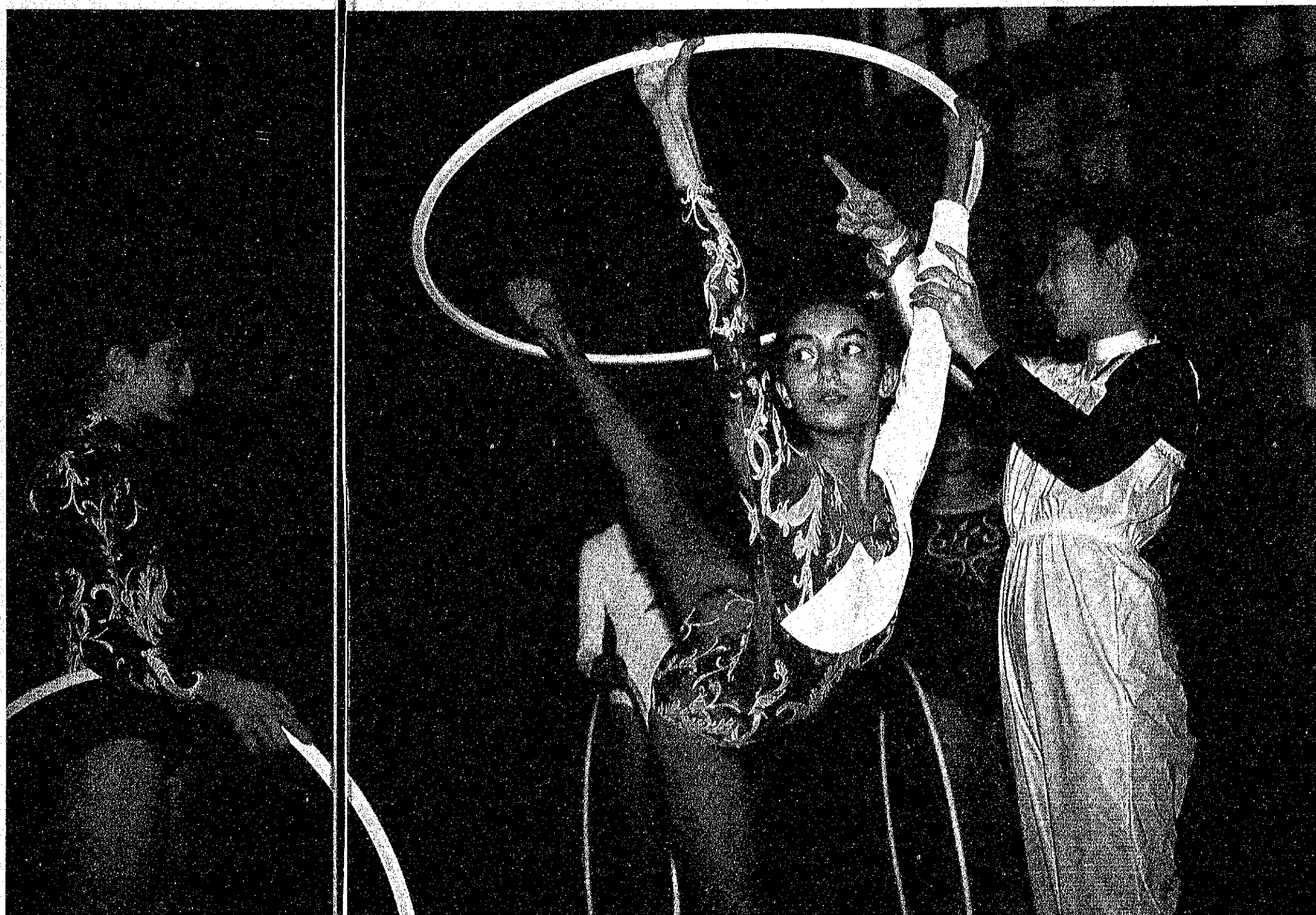
カメラマンノート② 逢坂慎一

「ムタリブ・ヤバーニ（日本人コーチ）？」、シリア北部、ユーフラテス川沿いの地方都市ラッカに隊員を訪ねた時のこと。町の交差点で道を確かめていると、交通整理をしていた警官が笑顔で教えに来てくれた。シリアにおけるスポーツ隊員派遣の歴史は古い。1972年に初代隊員として柔道、空手のコーチが擔任して以来、今日に至るまで、20年以上にわたって19の競技種目で、延べ70人にのぼる協力隊員が、この国のスポーツ発展に協力していることから、シリアのスポーツ関係者にJOCVの知名度は特に高い。最近ではシリア人コーチのレベルも高くなりつつあり、従来の種目に加え、新体操や身体障害スポーツなど新しい分野での隊員の活動が期待されている。

他の人種からのアドバイスをなかなか受け入れないプライドの高い国民性、慣習もしくは宗教的背景による女性のスポーツ普及度の低さなど、アラブ独特のメンタリティに苦労することは多いが、シリアのスポーツ隊員は明るい。自分を取り巻く状況の厳しさを、逆に楽しむ余裕があるに違いない。

彼女たちと向き合うことが、新体操に限らず、私の全てを動かしてゆく力になると信じます

練習好きな少女たちに囲まれて、新体操指導に熱が入る山本文美子隊員。心から新体操を楽しむ屈託のない彼女たちを見ていると、逆に教えられることがたくさんあるという。国内での演技発表会、アラブ諸国合同の競技会での発表を目指し、今は基礎を中心とした練習を徹底させている



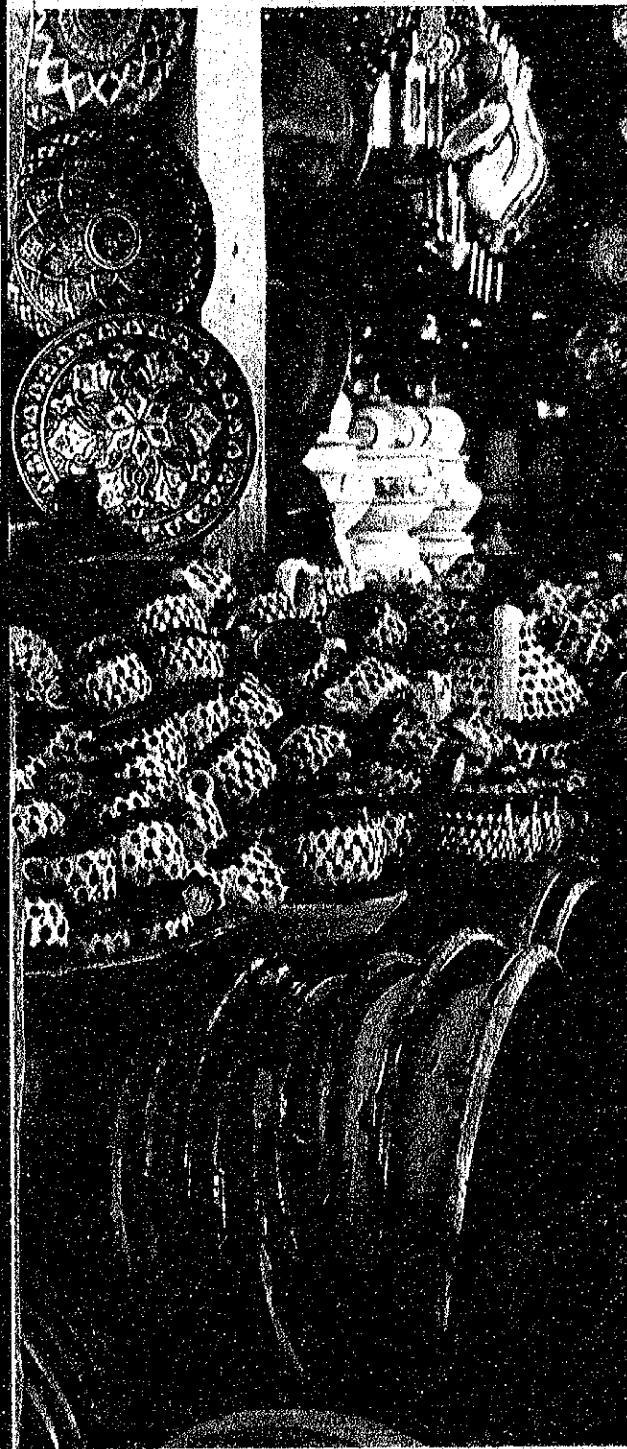
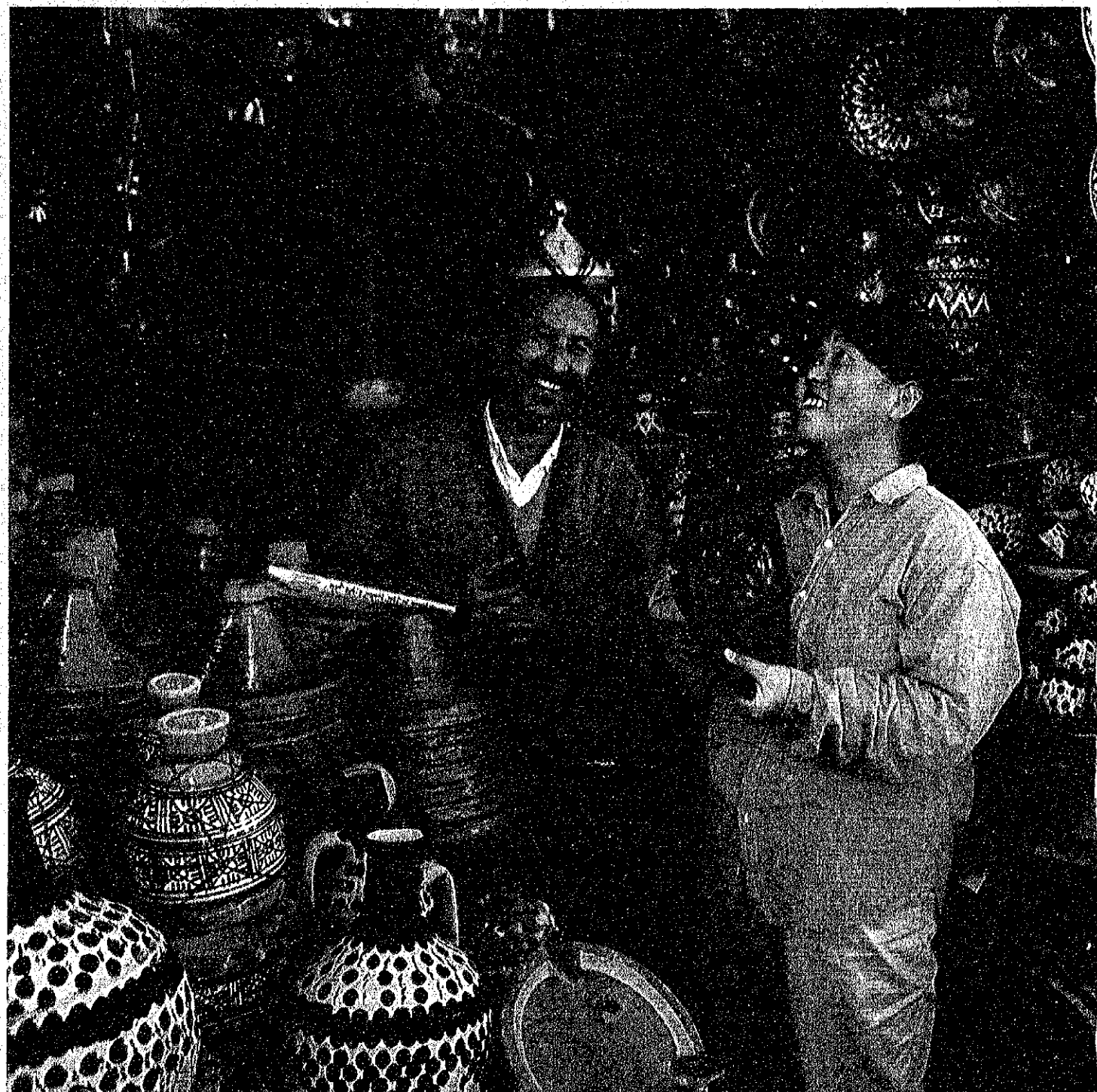
陶芸と美容 女性隊員の授業の向うに 女性たちの自立の道が見える

中近東の国の多くはアラブ文化が背景となっており、どうしても男性中心の社会が形成されていることが多い。モロッコではそんな中、女性隊員が今日も協力活動を繰り広げている。

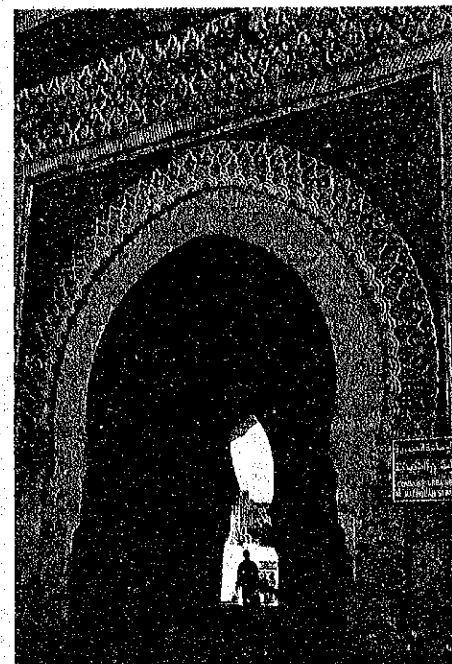
メクネスの伝統芸術学校陶芸科では、陶芸指導の女性隊員が学生相手に快活に授業を進めていた。学生たちの多くは明るく勉強熱心で今後が楽しみな人材ばかりだ。テトワンのマハナシュII婦人職業セン

ター美容科では、美容師の女性隊員がはつらつと協力活動を展開していた。生徒である女性のために女性が教鞭を執るのである。男性社会の中で、女性が手に職をつけ自立出来るように深くとけこみ支援をする、まさに女性隊員ならではの領域である。

どこまでも青い空、そして白い壁の家並が続く美しいモロッコの街で、彼女たちの努力は実りは始めている。



モロッコの古都メクネスにあるマンスール門。1782年に完成し北アフリカの中で最も美しいといわれる文化遺産である



できればモロッコ全国で、学生たちの巡回展を開きたい
メクネスの伝統芸術学校で陶芸を指導する西村早百合隊員は、地場の伝統技術とは一味違う技術を教えている。生徒のセンスも良く、これから各地で彼らの作品の展示会ができればと望んでいる。(前頁) 新しい作品を作る参考にと、伝統的な焼きものを売る店を訪ねる。(左) モロッコ方式の土もみは頭上から床にたたきつける



アラビア語での授業を決意！
生徒のために特訓中です

女性の社会進出の一環として英資全般を指導する伊能由美
隊員。一時期、来なくなってしまった生徒もいたが、次第
に興味を持ちはじめ、また足を運んでくれるようになった。
最初はフランス語で教鞭を執ったが、生徒たちの理解度を
考えアラビア語での授業を開始した。(次頁下) 伊能隊員
の住むアパートの大家さん一家にお茶を招かれる。とても
優しい人たちで、心の支えになっている



スペイン風の白い家並が続くテトワン市街

